

(別記様式第3号)

第1回石巻地域普及活動検討会実施報告書

石巻農業改良普及センター

実施月日：令和6年9月2日

実施場所：石巻合同庁舎

1 検討内容

No	検討項目
1	プロNo.2 小ねぎ産地における次世代の人材育成
2	プロNo.1 産地を形成する多様な担い手ステップアップによるいちごの産出額向上
3	プロNo.3 水田におけるばれいしょ及びさつまいもの安定生産
4	プロNo.4 省力化技術の活用による優良大豆種子の生産性向上

2 検討委員の構成

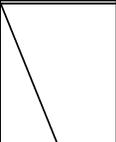
(単位：人)

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	2	生活者	
若手・女性農業者	1	学識経験者	1
市町村	2	マスコミ	
農業関係団体	1	民間企業	1

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
上記1-No. 1 (プロ2)	4.0	<ul style="list-style-type: none">組織が抱える課題を部会員全員が共有できる活動を展開し、会員それぞれ目的を持って経営することの大切さをしっかり指導していると思う。歴史ある桃生の小ねぎを次世代へと継ぐ対策を行っているほか、他地区の改善点を取り入れ、担い手の新規参入を行っている。人手不足のために年代別の働き手に隙間がないよう、パートなどの募集も考えた方が良く思う。問題提起により自発改善しなければならないという考えがでてきたことは、大変良いことだと思います。選別場を導入することにより、栽培に専念できることは品質向上や規模拡大にも有効であると思います。組合員の皆様が利用しやすいものとなることを期待します。プロジェクト活動の実施により、次世代を担う若手の人材育成等課題も見えてきたことから、引き続き課題解決に向けての技術支援、経営改善支援等をお願いします。	<ul style="list-style-type: none">生産技術の向上に向け、支援対象者自らが課題を見出せるよう問いかけ、その解決のため伴走し、自主的に技術向上に取り組むことを促しています。今後もその活動が部会全体で共有されることにより、技術の底上げに繋がるよう支援して参ります。選別場については、導入の判断や、導入する場合の規模等を検討できるよう支援してまいります。また、併せてJAいしのまきスリムねぎ部会の今後のあり

		<ul style="list-style-type: none"> ・中長期計画の中に、共同選別場を想定して組み込んでいくことで、今後新規就農者を何名確保すれば、桃生地区の小ネギ産地を持続可能な産地となるのかをもう少し掘り下げて検討すると良いと思いました。 	<p>方について、生産者の意見を引き出し、目標をもって取り組まれるよう支援して参ります。</p>
上記1-No. 2 (プロ1)	3.6	<ul style="list-style-type: none"> ・普及活動最終年度のいちごのプロジェクト活動は、毎年産出額が確実に実績を積み上げている成果が見られる。課題となる高齢化や栽培面積の減少などを解決するためにも、より一層の技術向上や新規参入がしやすい環境づくりの活動が求められると思う。 ・販売金額が年々増加しているので、生産者の意識向上にもつながっている。苗の育苗期間に病害虫の発生も時々見受けられるので、先生方のますますの御指導をお願いしたい。 ・新たな技術の取組支援により、収量が増加・安定したことは評価できます。更なるステップアップとして、コスト削減により利益率がの向上する指導を期待します。 ・プロジェクト活動の実施において、技術改善や環境制御等の技術向上に向けた支援により、いちごの収量も向上した成果も見られており、引き続き持続的な収量及び産出額の向上に向けての技術支援、経営改善支援等をお願いします。 ・収量ではなく、収益をもっと重視した経営計画が必要だと思えます。工数管理も今後最低賃金が宮城県は50円アップする中でコストパフォーマンスの重要性を感じます。それに伴い、温暖化での高温によるハウスの施設及び技術対策も具体で検討していく必要があると思えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで出荷量や販売額に視点を置き、3年間生産技術指導を徹底した結果、活動成果が出てきたと認識しております。 ・また、新規参入を希望される方には研修先や補助事業の紹介、参入後の技術等の支援を行っております。より一層参入しやすい環境となるよう活動を強化して参ります。また、コスト削減に向け効率的な暖房使用や炭酸ガス施用技術など、引き続き支援していきます。 ・今後は、これまで行ってきた技術向上支援に加え、補助事業等の活用やコスト削減に向けた取り組みを一層支援し、経営の安定が図られるよう活動をして参ります。
上記1-No. 3 (プロ3)	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・水田利用の高収益作物の普及は重要なプロジェクトと考えられるが、これまでの様々な課題の解消のため、生産法人との検討や現場での技術指導をしっかり行い、収穫物の増収、経営の安定化に向けて、良く指導されていると思う。 ・じゃがいもの産地が日本全国に広がり、「石巻地域も新たな産地になりつつあるのが良いと思う。近年の高温の中での栽培なので、技術指導はこれからも必要。 ・ばれいしょ、さつまいもの安定生産には、排水対策が大変重要であると思えます。排水対策等に関する技術指導や情報提供の取組により、安定的な収益が見込める作物となり、栽培者、栽培面積が増加することを期待しています。 ・プロジェクト活動の実施において、排水対策等の安定生産に向けての課題等が見えてきたことから、引き続き課題解決に向けての技術支援、経営改善支援等をお願いします。また、ポテト通信によるプロジェクトの取り組みの情報発信も引き続きお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで課題だった排水対策について、様々な技術の試行により、少しずつですが対策の効果がでてきております。ばれいしょ及びさつまいもの普及拡大にあたっては、排水対策が最大の鍵と認識しており、また、今後懸念される高温年に向けた対策も重要と考えております。これらの解決に向け、新たに開発された技術等を含め、様々な技術の導入や定着を支援して参ります。 ・新たな産地化に向けては普及ブログやポテト通信等を活用しな

		<ul style="list-style-type: none"> ・ポテト通信は情報発信として素晴らしいと思いました。さつまいもは、東北北海道地域が適地になっているので、輸出を含む販路拡大としても新規就農者の目標を持って取り組んでいくと良いかと思いました。担い手センターでも一緒に考え企画もできると思います。 	<p>から取組状況を紹介し、生産者の拡大と合わせ、消費者にも産地としてPRして参ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販路拡大については関係機関と連携し、実需者の拡大と合わせ、新規就農者が様々な販売方法に取り組めるよう助言等を行うとともに、その目標に向かって取り組めるよう栽培技術支援も行って参ります。
<p>上記1-No. 4 (プロ4)</p>	<p>3.6</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大豆種子の生産に取り組む組織が減少する中、栽培技術や作業の省力化、軽労化のため、新技術の普及活動と生産者との検討をしっかりと重ねていると思う。 ・集落営農として田んぼのほ場の有効活用に大豆が採択されて30年近くになり、当初の技術に比べ現在はとてもすばらしい栽培技術になったと思う。その割には未だに手選別が主体となっているのは残念。さらなる手厚い補助で大豆種子の技術を守ってほしい。 ・大豆種子生産を継続するため、過大な投資とならないよう、経営面積等に応じた規模・性能の機械導入についても指導していただきたい。 ・プロジェクト活動の実施において、種子選別の負担の課題等が見えてきたことから、引き続き課題解決に向けての技術支援、経営改善支援等をお願いします。 ・種子大豆を石巻地域としてどこまで規模拡大やインパクトのある事業にしていきたいのかその展望がわかると良いと思いました。全国2位という強みを活かしていくことは十分可能だと考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大豆はこれまで農業者と関係機関によるたゆまぬ努力により定着し、土地利用型経営の柱の一つとなっています。それを支える種子は重要な品目であり、高品質なものが求められています。 ・一方で、防除や選別作業等は手間のかかる作業で、作業の効率化が必要となります。これらの改善に向け活用できるスマート農業技術について、支援を行っております。また、選別方法についても効率化が図られるよう先進事例の視察を行い、管内でその技術が活用できるか等、検証と検討を行っていきます。 ・併せてスマート農業技術や選別技術の導入については、経営的な視点も踏まえた検討がなされるよう支援して参ります。また、石巻地域は種子生産の主要な産地であることから、今後も県大豆生産を支える地域として支援して参ります。
<p>その他</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ポテト通信の発行がすごく良いと思う。他の部門の作目でも取り組みしてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、いちごや稲、大豆、麦などの技術情報の他、管内の取り組みを紹介する普及センターだよりを定期的に発行して参ります。



す。それらの情報についても見やすく、また、新たな取り組み等を紹介するものとなるよう、検討と改善を行って参ります。